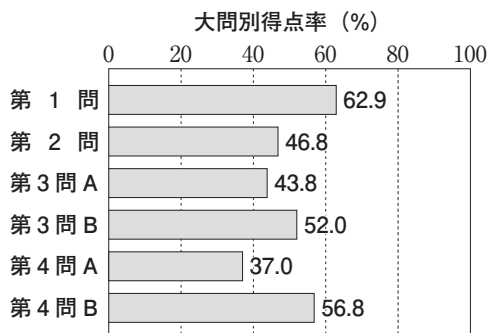
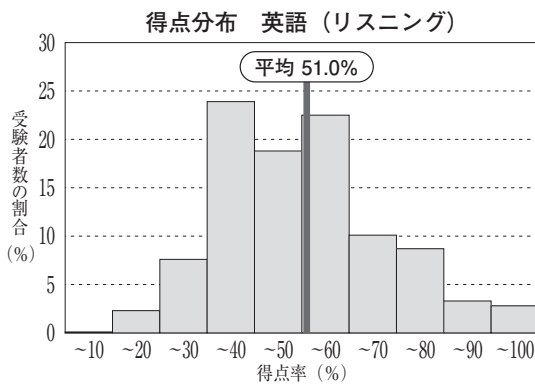


英語 (リスニング)

多様な英文と設問形式への対応力を高めよう。

I. 全体講評

全国統一テストは毎年実施されるセンター試験の内容とレベルに準拠している。今回の受験学年の平均点は25.5点、得点率にして51.0%という結果だった。まだ目標レベルには達していないと思われるが、筆記同様、現段階での力を反映したものである。パートによって出来不出来があるが、そのすべてにおいて今後の底上げを期待したい。大問別の得点率を見ると、最高が第1問の62.9%、最低が第4問Aの37.0%であり、他の大問はいずれも40~50%台の範囲内だった。第4問については、ABともに読み上げ文の長さがハードルになっているが、それだけにここで好成績を収めれば大きな差をつけることにもなる。リスニングでの高得点を目指し、耳のトレーニングを怠りなく続けてほしい。



II. 大問別分析

第1問 対話の聞き取り (数値・語句・イラスト選択)

課題を残したイラスト・数値問題

第1問の得点率は62.9%と比較的よくできていた。ただし、小問別正答率を見ると、30%台から90%台まで大きなばらつきがあった。比較的正答率が低かった小問は時間表現、つまり数値の聞き取りに関する問5とイラスト問題の問6だった。イラスト問題のねらいは視覚情報と言語情報を一致させることにあるが、文としてゆっくり読めばともかく、音声聞いて即座に判断するのは容易ではない。また、数値問題では簡単な計算が求められるのが通例である。計算が必要になることをあらかじめ想定しておき、一度目の読み上げで数値をメモしながら、およその対話内容をつかみ、二度目の読み上げで解答(計算結果)を確認するなど、対応のプロセスに自分なりの型を作っておくとよいだろう。過去のセンター試験で類似問題を数多くこなして、自分の型を完成させておくことをすすめる。

第2問 対話の聞き取り (応答文選択)

さまざまな話の引き継ぎ方がある!

第2問の得点率は46.8%とやや物足りなかった。小問別の正答率を見ると、60~70%台の箇所がある一方で、20%台が2つあり、これが大きく全体に響いてしまった。最も不振だった問11では、料理に追加したい酢とオリーブオイルの量を女性が逆に受け取ったことがわかる。それに対応する男性の返答が②であるが、正解者は4分の1ほどだった。この例でもわかるように、第2問に関して強調しておきたいのは、短いながらも文脈をしっかりつかむことの大切さである。話題の中心が何かはもちろん、対話をどのような形で引き継ぐのかに神経を集中しよう。特に、この問11のように平叙文で終わっている場合は、多様な応答のしかたが可能となる。対話の流れ全体から判断して、最も自然な応答を見つけなければならない。

**第3問 A 対話の聞き取り(質問に対する答えの選択)
語句レベルのトリックに要注意!**

第3問 A の得点率は43.8%で、全体平均よりも低かった。小問別の正答率も、すべて30~40%台に終わっていた。30%台に終わったのは最初の問14で、日にちを間違えて購入したチケットをどう処分するかが話題になっている。決め手は「友人に譲ろう」という最後の女性の発言で、正解は③であるが、①を選んだ人の方が多かった。①には本文と同じexchangeという単語が含まれているが、本文では否定されていることに注意すべきであった。第3問 A は短い対話に基づく内容一致問題だが、短い英文だからといって必ずしも容易なわけではない。上例のように、本文と選択肢にトリックとして同じ語句を使う場合もある。やはり対話全体の流れをつかむことが肝心である。また、特に親しい人物同士の対話では、情報を明確に伝える説明的な文とは異なり、多様な感情表現や、ユーモア、誇張、皮肉などの要素が加わることも珍しくない。言葉の裏の意図や心理を読み取るようにしたい。

第3問 B 長めの対話の聞き取り

間接的なヒントにも注意しよう!

第3問 B の得点率は52.0%で、全体平均に近い成績だった。ただし、小問別正答率は30%ほどから80%程度まで大きくばらばらついていた。正答率が最も低かったのは問18である。解説にもあるように、間接的なヒントから答えることになるので、やや紛らわしかったかもしれない。一般論として、第3問 B は対話形式を用いながら、説明的な情報を正確につかめるかどうかを試している。図やリストの空所を埋めるためには、細部の正確な聞き取りが欠かせない。かなり長い対話である上に、さまざまなリストの項目や、数量や序数が含まれることもあるので、うまくメモを取る工夫をしたい。

第4問 A 長めの文章の聞き取り

本文と選択肢の言い換え表現に要注意!

第4問 A の得点率は37.0%で、すべての大問中で最も低かった。小問別の正答率を見ると、問20が20%台、問22が30%台で、大きく足を引張ったことがわかる。問20では、大学卒業後の話者にあてはまることを尋ねている。読み上げ文の It took me a while to find the job after graduating

from college が決め手になって、それを言い換えた③ She wasn't able to find a job for some time. が正解だが、④を選んだ人が正解者の2倍以上いた。これは④の文中の nervous が読み上げ文で使われていたことによるだろう。このあたりは筆記テストとも共通する、内容一致問題の基本的なトリックとして頭に入れておくようにしたい。

第4問 B 長めの会話の聞き取り

ハードルは高いが、よく健闘していた!

第4問 B の得点率は56.8%で、第1問に次いで良い成績だった。小問別の正答率を見ると、問23と問25は40%台にとどまったが、問25が80%に達し、全体の得点率に大きく影響した。間違えた箇所については、読み上げ文を見直して確認してほしい。リスニング問題は筆記問題とは比較にならないほど高い集中力を要する。その最後に待っているのが、長い会話文を素材とするこの第4問 B である。毎回多くの人々が苦戦する大問であるが、これに対処するには日々のトレーニングで集中力を持続させる鍛錬をするほかはない。少しずつでよいから長い英文を集中して聞き取る訓練をしよう。

Ⅲ. 学習アドバイス

センター試験までの半年間を有効に使って、1問でも多く正解を得られるように対策を行おう。特に、まだリスニングに苦手意識がある人は、以下を参考に復習に努めてもらいたい。

まず、解答解説書の「読み上げ文」を読んで、内容をすべて理解できるかどうか確認しよう。わからない語句や表現は解説・辞書・参考書を利用して確実に理解すること。

理解が完全になった段階で、模試の復習ツールのリスニング音声で、読み上げ文を「音」として確認してみる。初めは読み上げ文のスクリプトを見ながら、次にスクリプトを見ずに音だけでどのくらい内容を理解できるか聞いてみよう。そして、リスニングの音声を真似て何度もスクリプトを音読してみる。数日間集中して行い、同じ速度でつかえずに音読できるまで何度も繰り返すこと。この音読学習を行ったあとで英語を聞くと、以前よりはるかに英語の音を聞き取れることが実感できる筈だ。短期集中でできる効果的な学習法なのでぜひ実行してほしい。